

Chiba Rosai News

千葉ろうさいニュース

Vol.15

平成29年7月1日



がん治療管理部

目次

2・3

がん治療管理部のご紹介

がん治療管理部長 副院長 安川 朋久
がん相談支援センター
がん看護専門看護師 笠谷 美保
がん性疼痛看護認定看護師 露木 郁里
相談員 君山 京子

4・5

看護週間イベント

院内イベント 看護相談
ふれあい看護体験
企業訪問

6

院内サークル活動のご紹介

案内カウンターのご紹介

7

連携登録医のご紹介

医療法人社団俊誠会
五味クリニック

8

当院の理念

がん治療管理

地域がん診療連携拠点病院として

当院は市原医療圏のがん診療連携拠点病院に指定されています。がん診療連携拠点病院とは、質の高いがん医療を全国どこでも受けられるようにすることを目的に整備（県が推薦し国が指定）された病院です。いわゆる5大がんといわれる胃がん、大腸がん、肺がん、乳がんおよび肝臓がん全てに対し、手術、放射線治療および化学療法を効果的に組み合わせた集学的な治療、各学会の診療ガイドラインが求める標準的治療が提供できることはもちろんですが、それに加えて緩和ケアの提供、地域のがん診療の連携協力体制の整備、患者・住民への相談支援や情報提供など様々な要件が求められています。

がん治療管理部は、これらの要件を満たすべく活動するために設けられました。当院のみならず市原医療圏で治療を受ける全てのがん患者さんが安心して治療を受けられるように、精神的・身体的な苦痛を和らげるための活動である、早期からの適切な緩和ケア、医療に関する様々な相談支援、情報提供等に積極的に取り組んでいます。



地域に開かれたがん相談の窓口を目指しています

当院は地域がん診療連携拠点病院であり、正面玄関を入ってすぐの場所にはがん相談支援センターがあります。電話と面談による相談の対応とがん予防や療養に関するパンフレットを整備して、通院中のがんを経験した患者さんやご家族、地域にお住まいの皆さまにご利用いただいています。その他にも、他院で治療中のがん患者さんやご家族、他県の相談員から地域の情報の問い合わせなど、がんにかかわる様々な相談ごとに対応しています。

近年は、生涯でがんにかかる割合が2人に1人といわれる時代であり、高齢化に伴ってさらにがんを経験する方が増えるといわれます。その一方で、医学の進歩による新たな治療の登場、インターネットやメディアに溢れる情報のなかで、どのようにがん付き合うとよいか迷う方も少なくありません。まずはじっくりと耳を傾けて相談者の思いに寄り添い、情報の整理や気持ちのつらさを和らげるかわりの大切さを感じています。

がん相談支援センターは看護師3名で相談に応じています。ご利用になる皆さまが気軽に立ち寄れる場所であると同時に、今後は在宅医、訪問看護師、その他にも地域でがん患者さんを支える方々との連携を強化し、がん医療・看護が切れ目なく提供できる協力体制の支援に努めたいと考えています。

また、毎月第2木曜日の14時～15時30分はがんを経験した方たちの交流の場『がんサロン』を開催しています。どうぞお気軽にお立ち寄りください。



部のご紹介

緩和ケアチームのご紹介

最近「緩和ケア」という言葉を耳にする機会が多くなったと思いますが、皆さんはどのようなイメージをお持ちでしょうか？患者さん・ご家族からよく耳にするのは、「治療ができなくなって、あとはもう緩和ケアだよ……」という言葉です。「緩和ケア＝終末期ケア」と思っている患者さん・ご家族が多くいらっしゃると思います。しかし、緩和ケアは、「患者さん・ご家族がより自分らしくいるためのケア」のことを言います。

がんと診断された当初の不安や心配事などの気持ちのつらさ。がんの治療が進んでいく中で体調の悪さやこのまま治療を続けていいのかと迷う気持ち。そして、治療が困難となったときの体の痛みやその他の苦痛、気分の落ち込みなど。また、患者さんを支え見守るご家族のつらさや不安。がん治療を受ける様々な時期に、少しでも安心して治療が継続できるようにサポートするのが「緩和ケアチーム」です。

当院の緩和ケアチームは、医師、看護師、臨床心理士が中心となって活動をしています。当院でがん治療を受けている患者さん・ご家族であればどなたでも対応させていただきます。がん治療を続けながら、自分らしく過ごせる方法を考えるお手伝いをさせていただけたらと思っています。



がん性疼痛看護認定看護師
露木 郁里
つゆき かおり

がんと共に生活していく皆様のご相談に応じています

新たにがんが見つかる方は年間約100万人といわれ、誰もがなりうる可能性のある病気といえます。しかし、個々で病状は異なるため、御自身の病気のことを正しく理解していないと、きちんと治療や生活の変化に向き合うことが難しいかもしれません。テレビやインターネットでたくさんの情報を耳にしたり、身近な人のがんの体験談を聞いて、新たな疑問や不安が生じることもあると思います。診察の時に医師にいろいろ気がかりなことを聞いてみようと思っても、通常の診察では時間に限りが出てしまい、本当に医師に確認すべきことが聞けずに終わってしまうこともあるかもしれません。そのような場合には、ぜひがん相談支援センターにお越しください。診察時に医師に確認した方がよいこと、医師以外の専門職や事務職で対応できることなど、私達がお話をうかがい気がかりの解決につながる方法を一緒に考えさせていただきます。

また、ご自宅へ戻られてからの生活で心配なこともあると思います。最近は高齢のご夫婦だけの家庭や一人暮らしをされている方も増えています。安心して自宅で生活が送れるよう、介護サービスの導入や自宅に来てくれる医療サービス等の情報をお伝えします。

他にも治療を行っている間の仕事のこと、医療費についても、利用できる制度をご紹介しますながら、一緒に考えさせていただきます。困ったり悩んだりした時は、ぜひ一度がん相談支援センターにお立ち寄りください。



相談員
君山 京子
きみやま きょうこ



看護週間

院内イベント 看護相談

院内のホスピタルストリートに、「血流測定」「肺機能測定」「体重・体脂肪測定」「認知症テスト」「栄養相談」「介護相談」「禁煙相談」のブースを設け、患者さん・病院職員の相談を受けました。



血圧は高くないですか？



体脂肪は正常です。



ふれあい看護体験

近隣の高校生に看護を体験していただきました。

「看護師さんの仕事は、大変そうだけど、患者さんに声をかけていただけてうれしかった！」



気持ちいいですか？ ありがとね。



看護師の仕事に触れてドキドキ♥♥♥

イベント

看護週間とは

毎年5月12日は「看護の日」、その日を含む日曜日から土曜日までが「看護週間」です。看護の心、ケアの心、助け合いの心は社会を支えていくために大切です。「看護の日」はこうした心の周知・普及のため、近代看護を築いたナイチンゲールの誕生日にちなんで制定されました。

当院看護部では、その看護週間にさまざまなイベントを行いました。

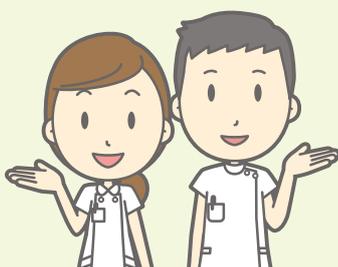


企業訪問

当院の看護師は病院で看護をしていますが、この日は病院を飛び出して、企業におじゃましました。工場の構内では、安全のため、ヘルメット着用。黄色のヘルメットをかぶり異時体験。企業で働く方の休憩時間を利用して「血圧測定」「肺機能測定」「禁煙相談」を行いました。



黄色いヘルメット素敵でしょ。



普段気になっている身体のことを気軽に聴けます。

院内サークル活動のご紹介

～息の合ったチームプレー～



相手が女子でも手加減なし

私たちは、月に1～2回の頻度で蘇我にあるKELフットサル蘇我の屋根付き屋外コートを借り、2時間から2時間半フットサルをしています。

メンバーは、医師・研修医・看護師・放射線技師・作業療法士・SEなど1回の練習で、10～15人、多い時には20人くらい集まります。

この時ばかりは、先輩・後輩も経験・未経験も、ましてや男女関係なく混合チームでプレーしています。

普段、他職種間で連携しチーム医療を行うために、ここではボールを追いかけてコミュニケーションを深めています。

ストレス&運動不足の解消にもってこいですが、楽しみ過ぎると筋肉痛のおまけが付いてきます。



12月でもたくさん集まりました



練習後の食事風景

案内カウンターのご紹介

笑顔で皆さまをご案内いたします！



案内カウンターは、外来棟1階と2階にあり、各階1～2名で対応しております。新規の患者さんを各診療科へご案内したり、検査室、レントゲン室へのご案内を行っております。分かりやすく丁寧な対応を心掛け、患者さんがスムーズに受診できるよう努めております。「〇〇に行きたいけど場所がわからない」などお困りの際はお気軽にお立ち寄りください。



連携登録医のご紹介

医療法人社団俊誠会 五味クリニック

ごみひろこ
院長 五味 博子先生



在宅医療の勧め

枯れ葉がハラリと落ちるように生きる事が終わると痛くも苦しくありません。人間も自然の一部ですから。

家族が普段どおりの生活をしている中、朝になり孫が「行ってきます」と学校に行き、大人たちがいつもどおり働きはじめ、お年寄りがその気配を感じながら、いつの間にか天に召される。在宅医療では、そのような美しい光景をたくさん拝見しました。もちろん早期発見、早期治療で病気を克服できれば素晴らしいことです。しかし病気と闘っていると、病気で不自由だったり苦しかったりすること、自分が幸せであることが全く別のことだということを忘れてしまいがちです。

病気は治ったほうが良いのですが、治らなくても「今日は昨日より心が軽やかないい一日だな」と思うことが出来ます。そう思い出せるのは何といても自宅です。家では窓からの景色、ベットの鳴き声、料理する音や匂い、好きな写真や音楽、子供の笑い声、少量のお酒などが、どんなに痛みを和らげてくれることか。頑張り続けるのは体に良くないのです。

病気に負けないで頑張らなくちゃという状況から気持ちが解放されたほうが痛くないのです。

入院すると急激な環境の変化に順応できず、一時的に訳がわからなくなり認知症と診断されてしまうお年寄りが、退院し家に帰り一息落ち着くと、あっと言う間に長老の威厳を取り

戻し、今まで人生の多くの困難を乗り越えてきたように、自分の人生の締めくくり方について結論を出すことがあります。私たちは必ずその指示に従います。

がんのような治りづらい病気は特に在宅医療が役に立ちます。自宅で暮らすとお金もかかりませんので、次の治療について冷静に考慮することができます。入院中に病気と一騎討ちしている時には見逃していた、生きる意味を取り戻すことができます。自宅での療養では急に苦しくなったり、熱がでたら困るし、心細いと思われれます。私たちは訪問初日に携帯電話の番号をお渡しして「いつでも心配な時は呼んでください。必ずすぐに来ます。日曜、祝日でも、夜中でも、いつでもかまいません。私たちはパジャマを着て寝てませんから。」とお伝えします。実際そのようにして20年以上暮らしています。

医療法人社団俊誠会 五味クリニック 診療案内

〒299-0111 千葉県市原市姉崎466 KTビル5F 電話番号 0436-61-0028

診療科目 皮膚科・内科・アレルギー科・乳腺科

診療時間		月	火	水	木	金	土	日・祝
午前	9:00~12:00	休	休	休	休	休	○	休
午後	4:00~7:00	○	○	休	○	○	休	休

※月曜日の診療は、平野順子医師が担当します。

乳癌超音波検診：第2、4土曜日（完全予約制）

【休診日】水曜日・日曜日・祝日

千葉ろうさい病院 理念

基本理念

私たちは、地域の人々、勤労者の方々に高度で安全な医療を提供します。

基本方針

1. 患者の権利を尊重し、安全で質の高い医療を提供します。
2. 急性期医療・予防医療を担い、基幹病院として地域医療に貢献します。
3. 働く人々の健康を守り、社会復帰を支援します。
4. 豊かな人間性と高い技能を備えた医療人の育成をはかります。
5. 明るく向上心に満ちた職場をつくります。



のどかな田園風景が広がり、田んぼから蛙の合唱も聞こえてきました。

編集 後記

新年度が始まってもう7月、真夏の到来です。これからの季節は気温も高くなってきます。この、酷暑の夏を元気に乗り切るには、心身ともに休める時間を作り、リフレッシュすることが一番だと思います。7月といえば、七夕、海水浴、キャンプ、花火、夏祭り、夏休みと楽しいイベントが浮かびます。皆さんはどなりフレッシュをして夏を過ごしますか？

日焼け対策や熱中症対策が必要となってきますが、無理をせず自分のからだに相談し、素敵な夏をお過ごしください。

広報委員会 黒田 幸代（看護部）